

「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in かながわ かながわこどもまんなかミーティング が開催されました。



令和 5 年 11 月 9 日(木) こどもや子育てにやさしい社会づくりを推進するために『「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in かながわ かながわこどもまんなかミーティング』がヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルで開催され、神奈川県知事と県内市町村長が参加しました。

知事による開会挨拶の後、こども家庭庁長官官房長、認定 NPO 法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ 西川貴清氏による基調講演や、小田急電鉄株式会社によるこどもまんなかアクションの取り組みの紹介、さらに市町村長からのさまざまな取組事例の紹介や知事との意見交換が行われました。



黒岩県知事による開会の挨拶



加藤大臣からのビデオメッセージ



出席者はオンラインでも参加



黒岩県知事に意見を述べる出席者

■基調講演「こども政策の展望と課題」「地域のこどもの居場所づくり」

こども家庭庁長官官房長による基調講演では、家族の孤立化が進み、生きるための土台となる欲求が満たされないこどもが増えていること、さらに、こどもを支える存在が保護者や養育者に偏りすぎている現状について紹介。また、加速する少子化の要因として、経済的負担への不安、子育てを両立しにくい職場環境、子育て世帯が感じている不公平感などの課題があることについても言及。こども・子育て支援のために新たに創設された特別会計「加速化プラン」の方針と計画についても説明し、国や地域など、社会全体でこどもを支える必要があることを訴えました。

続いて、認定 NPO 法人 全国こども食堂支援センター・むすびえの西川貴清氏が、こどもの居場所としてのこども食堂の可能性を考えるという趣旨のもと、活動報告と今後の展開について講演。今、こども食堂は 5 年で 25 倍に増加、1~2 年後には中学校数を上回ると見込まれており、社会的なインフラになりつつあること。貧困の連鎖を断ち切るだけでなく、こどもや親同士、高齢者の交流の場、賑わいのある地域を作る働きも担っており、いい地域を作るための土壌作りにこども食堂が貢献している。現状の大きな課題は孤立化の解決であり、「国や自治体、地域と連携しながら、こどもの居場所作りを進めていきたい」とこども食堂の展望について語りました。

■意見交換・情報提供

事前にとった子育て施策に関するアンケート結果に基づき、「子育て支援のデジタル化」「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援」「こどもの居場所づくり」の 3 つのテーマに分けて意見交換がスタート。冒頭に黒岩知事による各テーマの説明後、各市町村が行政手続きのデジタル化やアプリの活用、子育て家庭の経済的支援や各補助金制度、生活困窮世帯のこども養育者への寄り添い支援など、今取り組んでいることや今後の展望について意見を交換し合いました。各市町村が工夫をしながら課題解決に取り組んでいる状況を聞き、現状の問題がリアリティをもって伝わってきたと感想を述べた黒岩知事。「これからも、市町村のみなさんと意見交換をしながら前に進んでいきたい」と今後の意気込みを語りました。

意見交換後は、こどもまんなかの趣旨に賛同し、アクションを実践している小田急電鉄株式会社とこどもまんなか機運醸成事業を行なっている神奈川県次世代育成課が取り組み事例を紹介。少子高齢化という社会課題に対する鉄道会社ならではのアプローチや位置情報を活用したプロモーションなど、それぞれの組織の個性と特徴を生かした施策について説明し、情報の共有を行ないました。

大会を終えて、黒岩知事は「今が少子化に歯止めをかけるラストチャンス。我々は危機感を持って、市町村と連携をしながら課題に取り組まなければならない」と強くアピールしました。

【概要】名称:「かながわこどもまんなかミーティング」/ 場所:ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル / 日程:令和 5 年 11 月 9 日(木) / 内容:《基調講演》こども家庭庁長官官房長「こども政策の課題と展望」、認定 NPO 法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ 西川貴清氏(神奈川県福祉子どもみらい局戦略アドバイザー)「地域の子どもの居場所づくり」《情報提供》小田急電鉄株式会社、神奈川県次世代育成課 / 主催:神奈川県/ 協力:こども家庭庁